

設楽の城砦めぐり

STAIRS

— 清水城編 —



清水城址

清水城址は、西納庫を通る国道の北にある高台に築かれ、集落のほぼ中央に位置する。

現在、杉檜林に覆われ、中心部の本曲輪くまわは、南北に長い楕円形となる。北は大きく堀切られ、たそほり堅堀に続き、東は三曲輪と帯曲輪、その下に町道と小川、水田が広がる。南は二曲輪と大手口、西は急斜面が小川まで続き水田と旧道、その先の山上に黒石砦が築かれ、小規模であるが、四神相應の地形に築かれていた。

城主は、菜倉左近藏人が知られ、南北朝時代に足助氏の代官として、建武元年頃在城した。近隣二十八ヶ村を支配したが、南朝の没落と共にこの地を退去したといわれる。

名倉姓発祥の一つがこの菜倉氏からくるといわれ、苗字のルーツを求めて訪れる人もいる。

(愛知県文化財保護指導委員)

加藤 博俊